釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）11月17日発行　VOL 33

学級担任の役割

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

毎週木曜日、金曜日になると職員室の校長の机上に、各学級担任が作成した学級通信が置かれます。日常の学級における生徒の様子、授業における生徒の頑張る姿、学級として何を目指し、どんな取組を進めているのか、現在の学級が抱えている課題、学級担任の生徒や保護者に対する率直な思いなど、多種・多様な内容が記されています。特に、学級担任が生徒たちに送る様々なメッセージは読み応えがあります。全ての学級担任に共通していることは、メッセージの至る所に生徒たちへの愛情があふれていることです。読んでいて気持ちが温かくなりますし、ときに熱くなることもあります。そして、「学級担任」という仕事（役割）の素晴らしさを感じます。本校の学級担任の10名は、難題を抱えたり、壁にぶつかったりするなど苦労していますが、学校の基盤となる学級を生徒と一緒になって創ってくれています。学校づくりにおいて、学級担任の存在はとても貴重です。

学級担任の役割を端的に表すと「児童生徒の成長を促すために、学習指導や生徒指導、学級経営、保護者や関係機関との連携など多岐にわたり、具体的には、個々の児童生徒の特性を把握した指導や、学級全体が安心して過ごせる環境づくり、更には児童生徒の心身の発達を促すこと」になります。もう少し掘り下げると、「学級を円滑に運営し学級目標の達成を目指す」、「係活動や当番活動など児童生徒が主体的に関われるルールづくりを行う」、「一人一人の個性やよさを認め合える人間関係を育む」、「挨拶や整理整頓など生活習慣の指導を行う」、「児童生徒の悩みや問題を早期に発見し適切な支援を行う」、「保護者と信頼関係を築き連携して指導に当たる」などが考えられます。これらの役割を担う学級担任は、学級担任外の教師よりも在校時間が長くなりまし、精神的にも相当なプレッシャーを抱えることが多くあります。このような中、2024年８月に中央教育審議会答申において教師の処遇改善に関する指摘がなされました。

国は学級担任の職務の重要性や負荷を踏まえ、現在、一律支給されている義務教育等教員特別手当について、職務の負担に応じた支給方法に見直すこととし、学級担任について手当額を加算する必要があると提言しました。そして、令和７年度予算において、月額３千円を増額する措置が取られることになりました。加算措置は、令和８年１月から導入される予定になっています。

月額３千円の増額が学級担任の役割に見合う金額かどうかは分かりません。ただ、本校の学級担任の仕事ぶりを見ているともっと増額するべきだと考えてしまいます。学級担任をしている教師に、学級担任の魅力について質問しました。「生徒たちの成長全般を見守り、サポートする中で、自分自身も成長できることです」、「生徒たちと喜びや感動を共有できたり、感謝されたりすることです」という答えが返ってきました。処遇改善で学級担任の役割を評価することはもちろんですが、学級担任という役割に真摯に向き合っている教師の姿勢に感謝するとともに、リスペクトすることが大切なのだと思います。